

HPVワクチン被害とは？

HPVワクチン薬害九州訴 原告団代表
全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会
福岡県支部代表

梅本邦子

どんなワクチン？

子宮頸がんの原因といわれている ヒト **H**uman パピローマ **P**apilloma ウイルス **V**irus の感染防止

HPV ワクチン

(子宮頸がん予防ワクチン)

どんなウイルス？

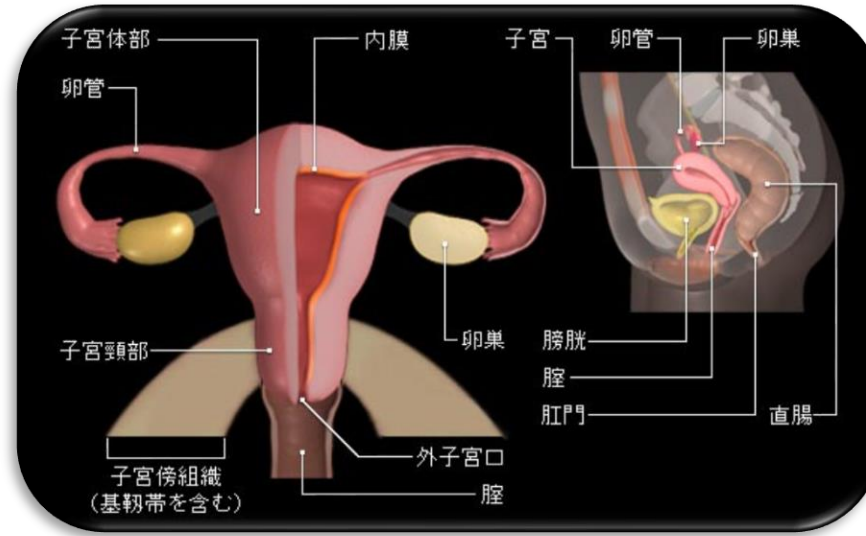
粘膜の接触によって感染するありふれたウイルス

性経験のある女性の約5～7割はHPV感染経験

200種類ほどの型がある。 (ハイリスク型**15種類**)

HPVに感染しても **2年以内に90%**の人は免疫の力で排除

子宮頸がん どんな病気？

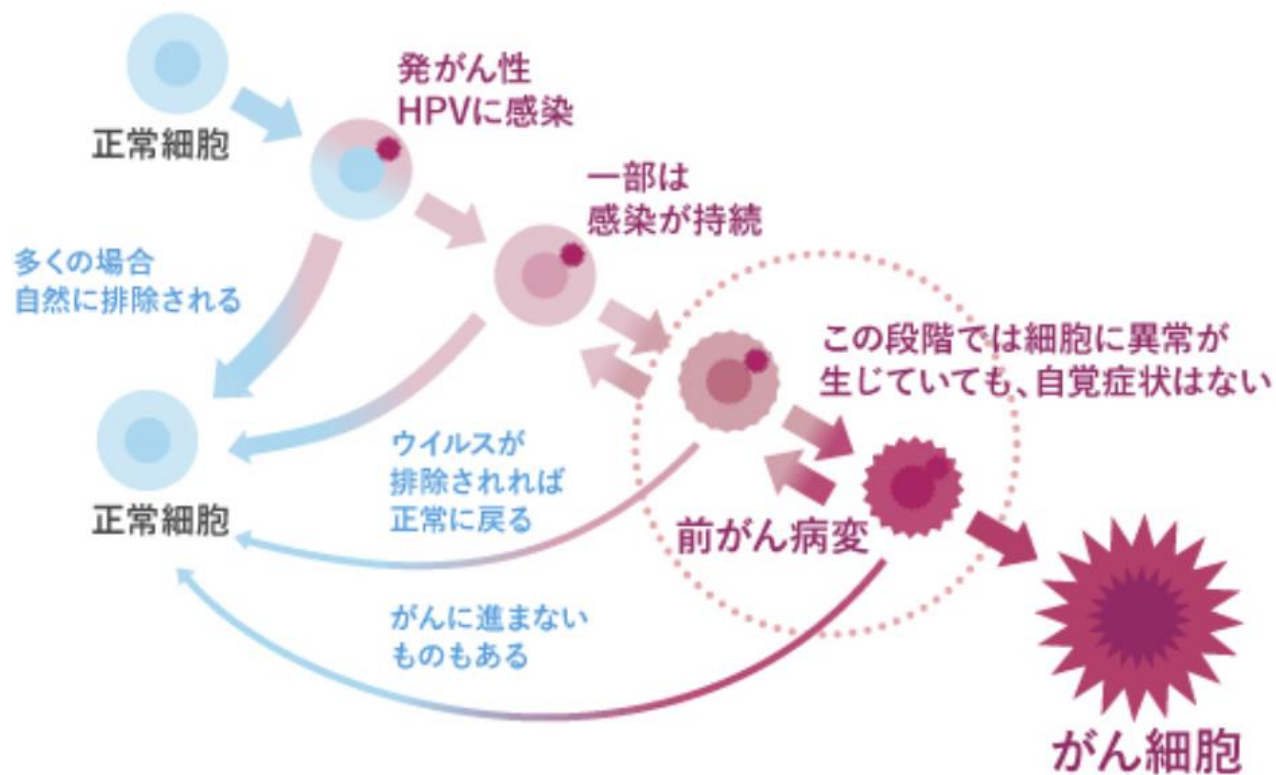


国立がん研究センター
がん情報サービスHPより

- 子宮頸部の組織に悪性（がん）腫瘍が認められる病気で通常一定の時間をかけてゆっくりと増殖する。
- がんが子宮頸部に発見される以前の段階として子宮頸部の組織に正常でない細胞が出現する。
この変化を異形成（または前癌病変）という。
- CIN1(軽度異形成) \rightleftharpoons CIN2(中等度異形成) \rightleftharpoons CIN3(高度異形成・上皮内がん) \rightarrow 浸潤がんという経過をたどる

ほとんどの人（90%）は正常細胞に戻る

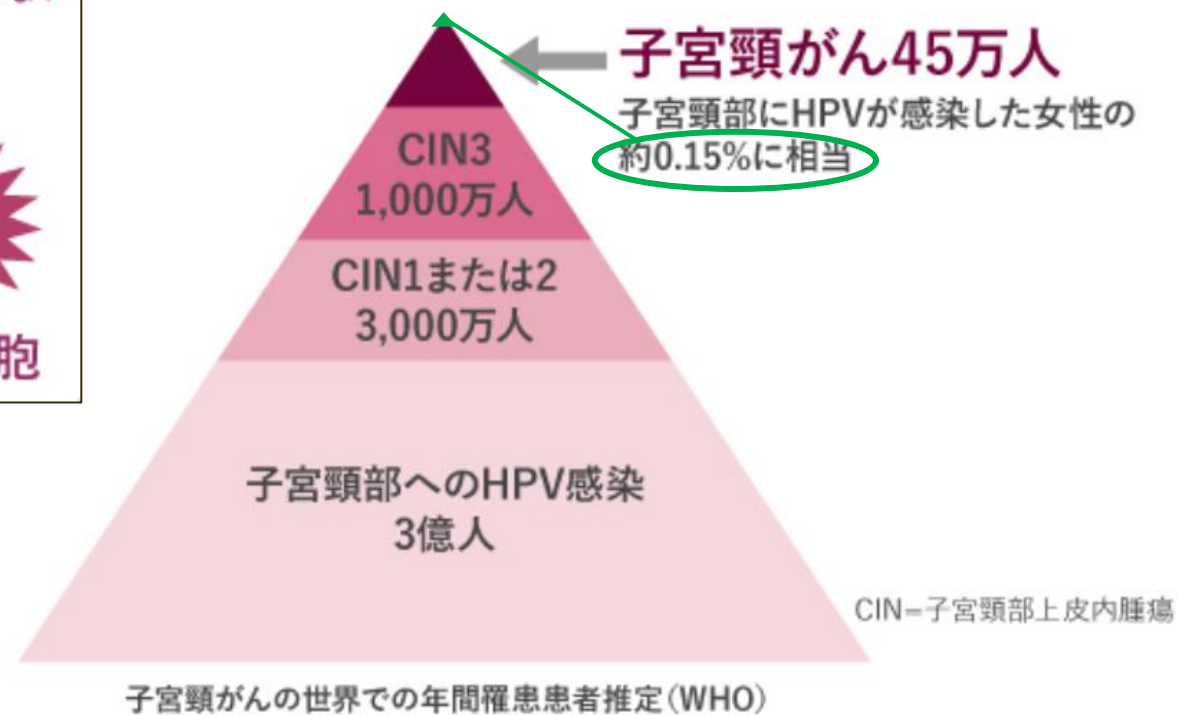
発がん性HPV感染とがん細胞への変化



すべての女性に知ってほしい子宮頸がん情報サイト

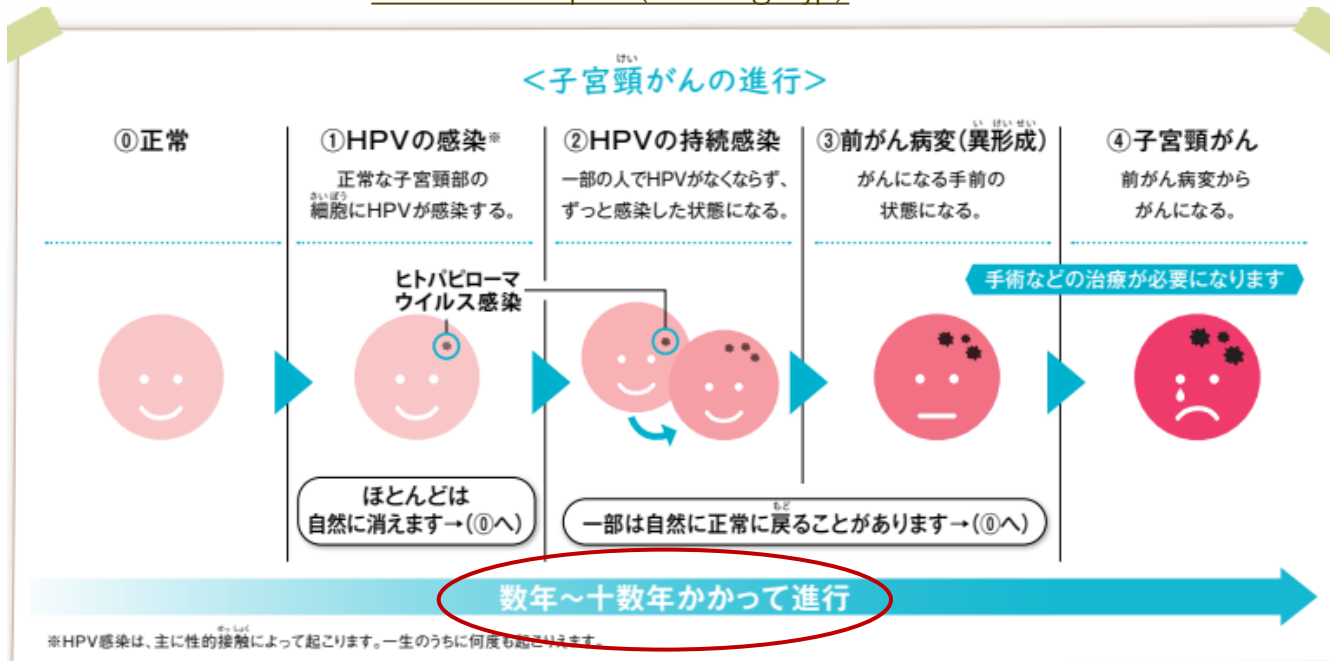
allwomen.jp

<https://allwomen.jp/factor/hpv.html>



厚生労働省 リーフレット(詳細版)

000901220.pdf (mhlw.go.jp)

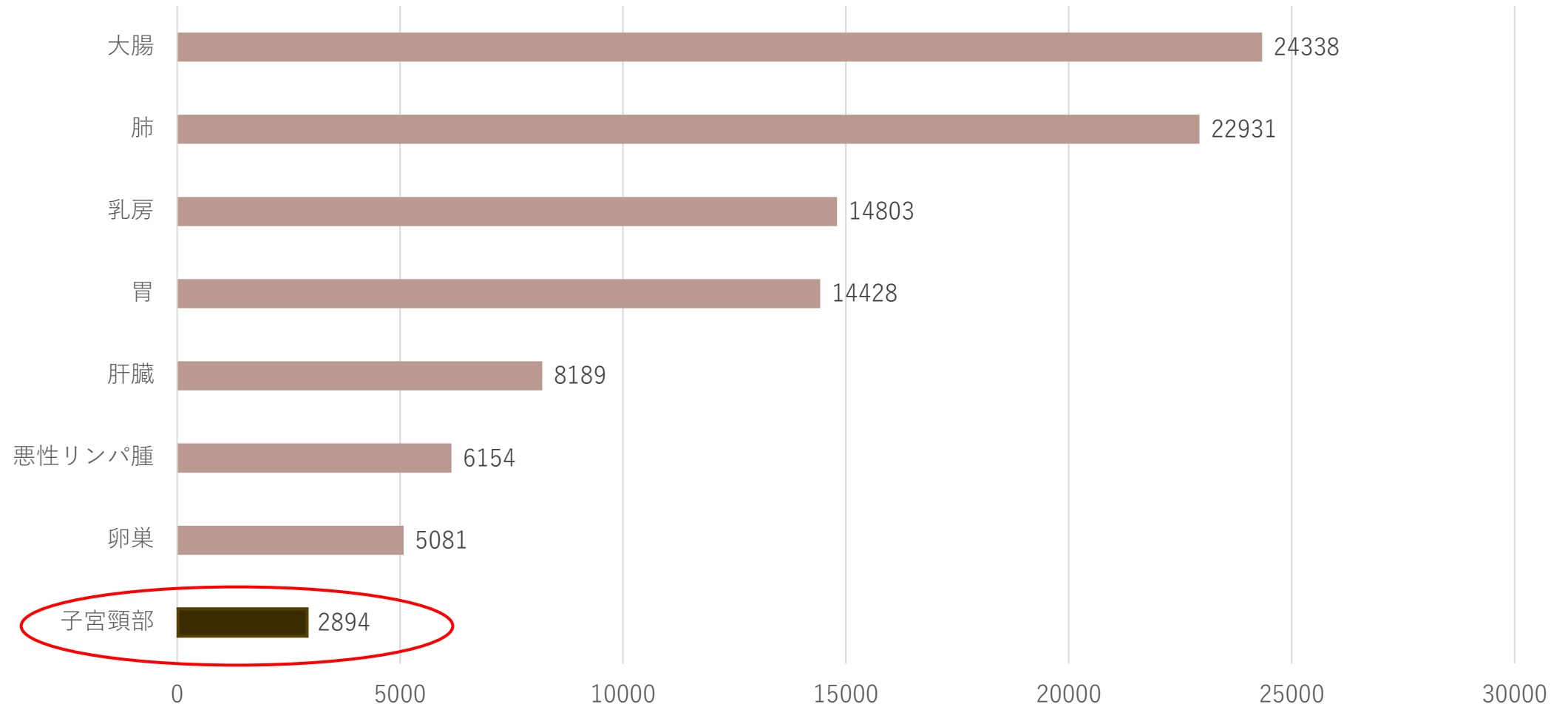


日本産婦人科学会

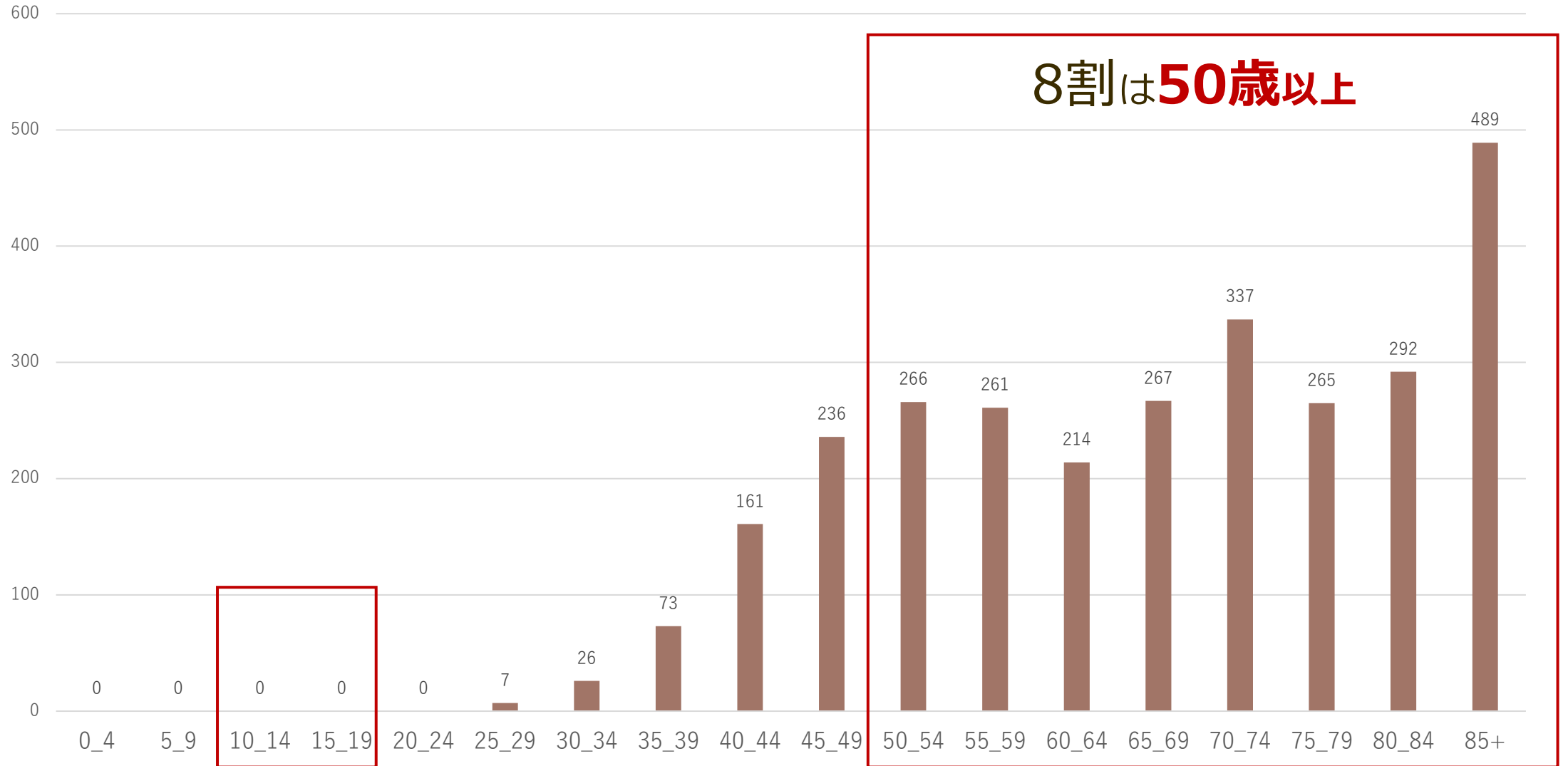
https://www.jsog.or.jp/modules/diseases/index.php?content_id=10

子宮頸がんのほとんどは、ヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスの感染が原因であることがわかっています。このウイルスは性的接触により子宮頸部に感染します。HPVは男性にも女性にも感染するありふれたウイルスであり、性交経験のある女性の過半数は、一生に一度は感染機会があるといわれています。しかしHPVに感染しても、90%の人においては免疫の力でウイルスが自然に排除されますが、10%の人ではHPV感染が長期間持続します。このうち自然治癒しない一部の人には異形成とよばれる前がん病変を経て、数年以上をかけて子宮頸がんに行進します。

2021年 女性の部位別死亡数

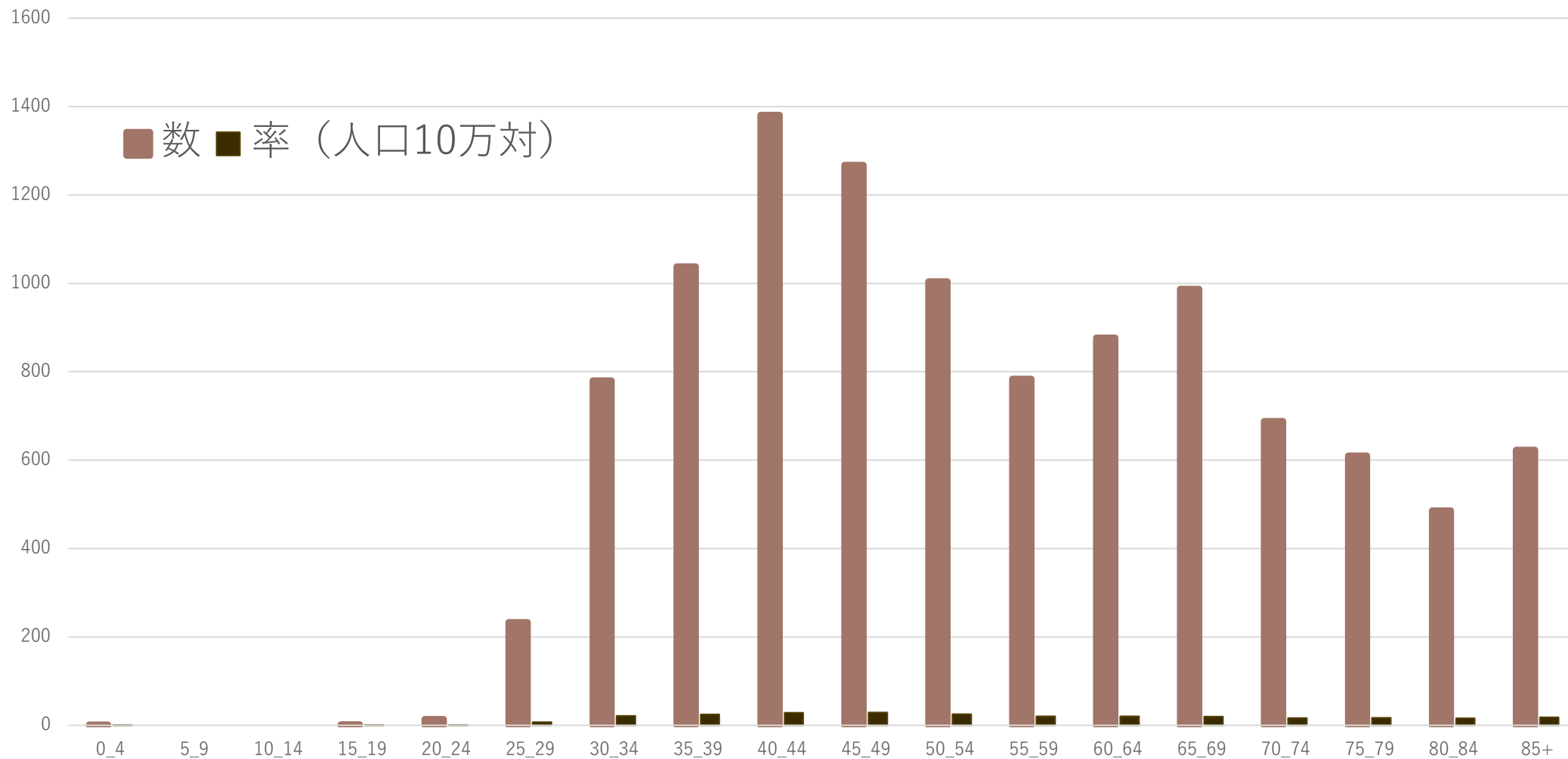


2021年 年齢別死亡数



資料：国立がん研究センターがん情報サービス
グラフデータベースより

2015年 年齢別罹患数と罹患率



資料：国立がん研究センターがん情報サービス
グラフデータベースより

子宮頸がんの原因

- HPV感染
- 喫煙習慣
- 免疫力低下
- 他の感染症
- ピルの長期使用

原因は複数

▶ HPV感染だけではガンにならない

子宮頸がん発症に至るのはHPV感染者の

0.15%程度

(99.85%の人はがんを発症しない)

世界保健機関 (WHO)

<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/cervical-cancer>

厚生労働省のリーフレット (概要版)

ウイルス感染でおこる子宮けいがん

詳細版
P2~3

「がんってたばこでなるんでしょ？」

「オトナになるものだから私は関係ない」って思っていないですか？

実はウイルスの感染がきっかけでおこる“がん”もあります。その1つが子宮けいがんです。

HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が原因と考えられています。

このウイルスは、女性の多くが“一生に一度は感染する”といわれるウイルスです*。

感染しても、ほとんどの人ではウイルスが自然に消えますが、一部の人でがんになってしまうことがあります。

現在、感染した後にどのような人ががんになるのかわかっていないため、感染を防ぐことががんにならないための手段です。

※HPVは一度でも性的接触^{セックス}の経験があればだれでも感染する可能性があります。



女性の多くがHPV(ヒトパピローマウイルス)に
“一生に一度は感染する”といわれる

がんになる場合も

感染を防ぐことが
がんにならないための手段



HPVワクチンの種類

ウイルスの型 **約200種類**
(ハイリスク型**15種類**)

- 1** **サーバリックス** GSK社 2価ワクチン (**16型・18型**)
2010年10月 緊急促進事業(公費助成)
2013年14月 定期接種
- 2** **ガーダシル** MSD社 4価ワクチン (6型・11型・**16型・18型**)
2012年7月 緊急促進事業(公費助成)
2013年4月 定期接種
- 3** **シルガード9** MSD社 9価ワクチン (6・11・**16・18・31・33・45・52・58**)
2023年4月 定期接種

1 **2** **3** 対象者：12歳～16歳の**女子**
※ **2** **9歳～男子**承認

承認から 現在まで

任意 接種 339万人	2009年	10月	①サーバリックス承認
	2010年	12月	緊急促進事業 （公費助成） → 販売開始
	2011年	07月	②ガーダシル承認・ 緊急促進事 （公費助成）
	2013年	04月	定期接種
定期 接種 94万人	2013年	06月	積極的勧奨 中止
	2020年	12月	ガーダシル男子承認（9歳～）
	2022年	04月	積極的勧奨 再開 （ キャッチアップ接種 ）
	2023年	04月	③シルガード9が定期接種に加わる

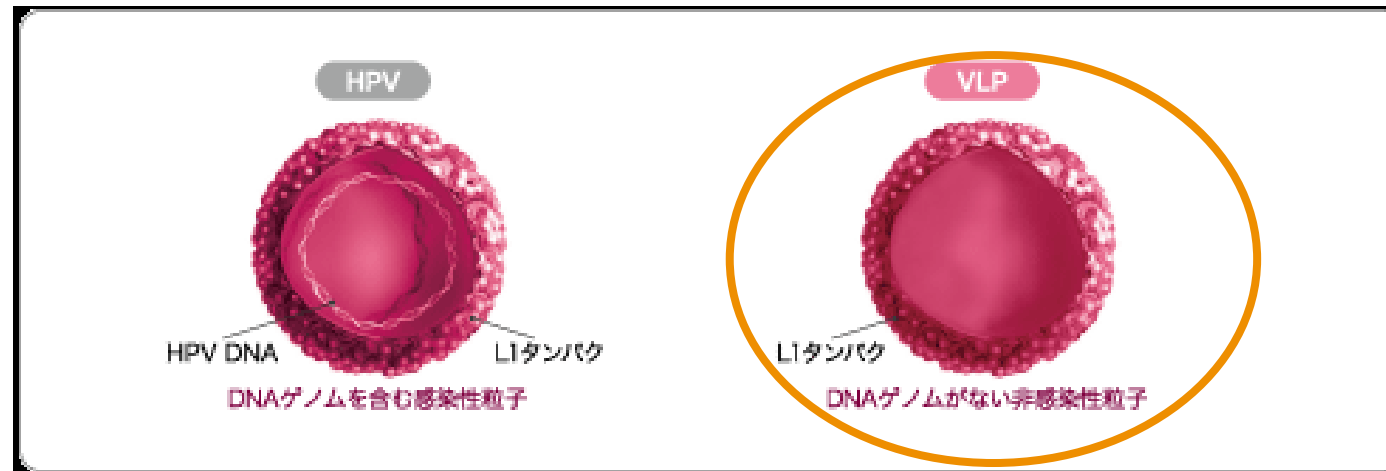
緊急促進事業対象者：
小6～高1相当の女子
公費助成(接種費5万円→ほぼ無料)
積極的勧奨（個別通知でオススメ）

副反応報告相次ぐ
定期化前に患者会設立

副反応の適切な情報
提供ができなかったため

安全性の確認は不十分
副反応報告の増加

HPVワクチンの中身と作用機序



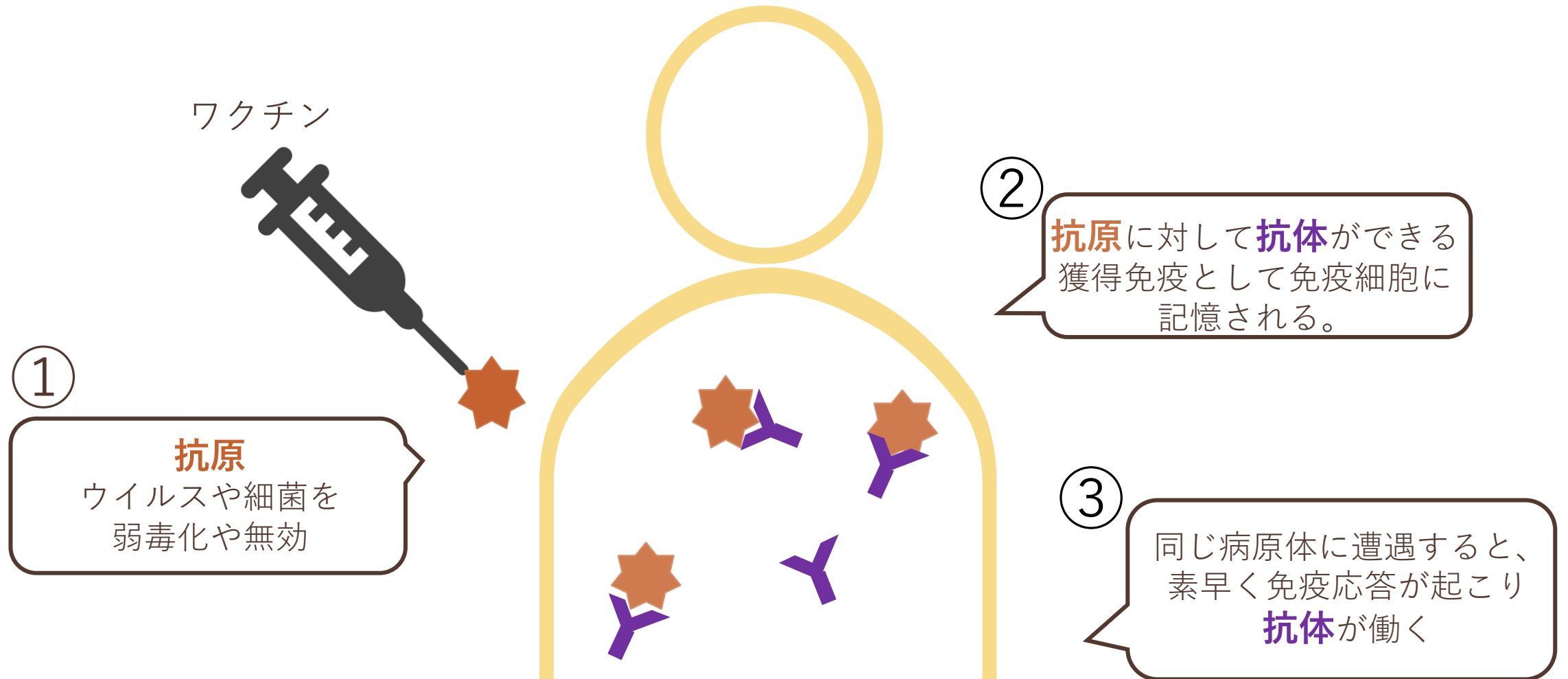
MSDのwebsiteより

HPVのウイルス様粒子（VLP）を抗原とした不活化ワクチン。
サーバリックスは昆虫細胞、ガーダシルは酵母（いずれも遺伝子組み換え）を培養してL1蛋白を発現させて精製して製造。

- ✓ 遺伝子組み換えで作った抗原（強い免疫原性・分子相同性）
- ✓ 独自開発した強力なアジュバント
- ✓ 特殊な作用機序

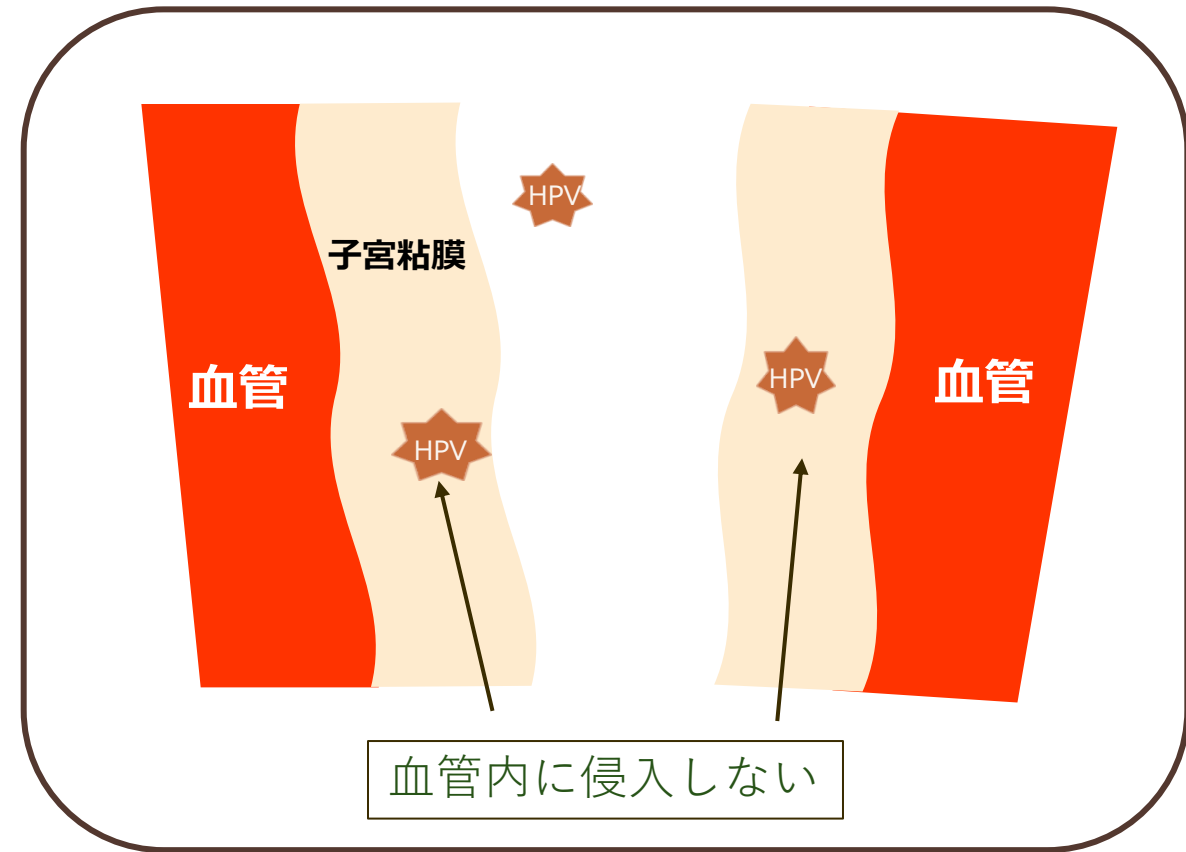
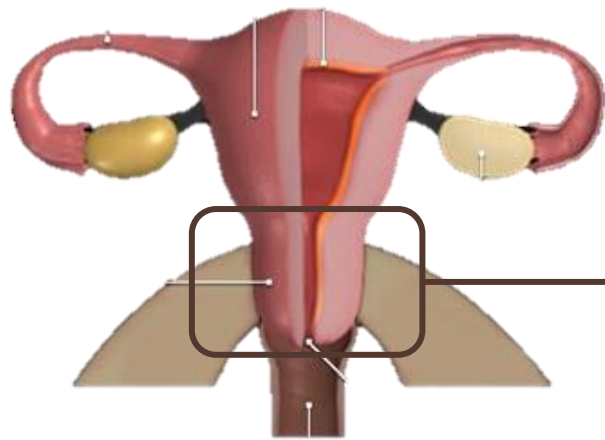
これまでのワクチン作用機序

感染を模倣し人為的に免疫応答を起こさせ獲得免疫に抗原情報を記憶させることが目的

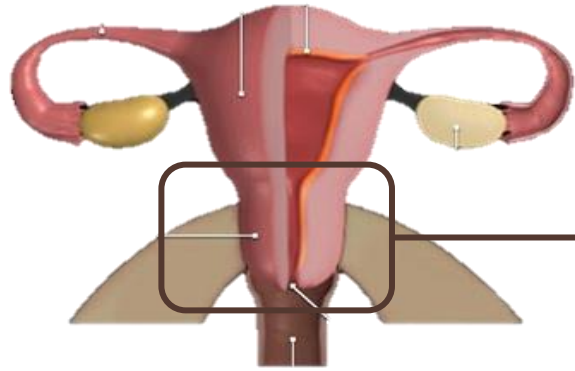


HPVは感染しても血中に抗体が作られない

感染しても粘膜に留まる
免疫機構から逃れる



これまでにないワクチンの作用

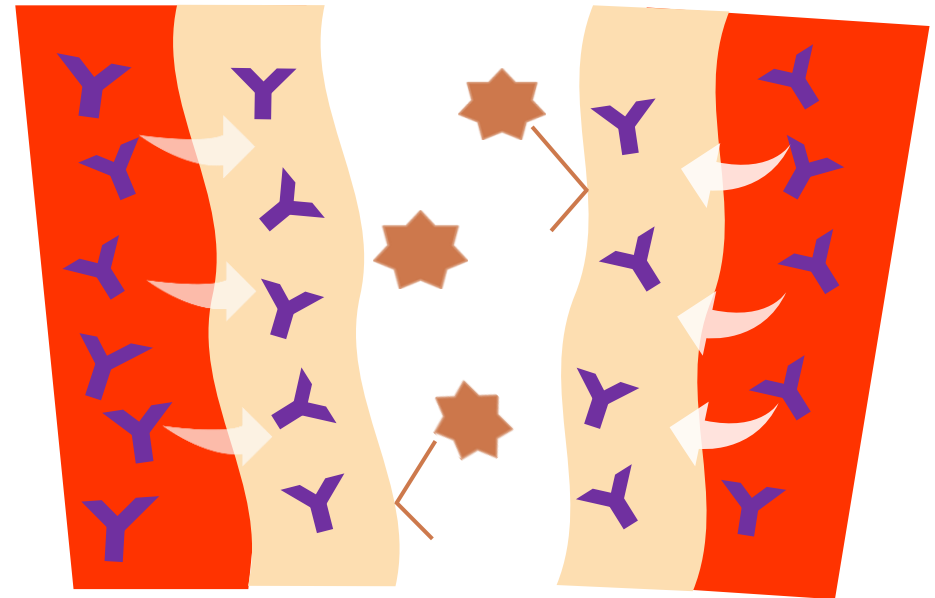


自然感染の約100倍の抗体を
24時間365日
常時粘膜に染み出させ続ける



史上初の試み

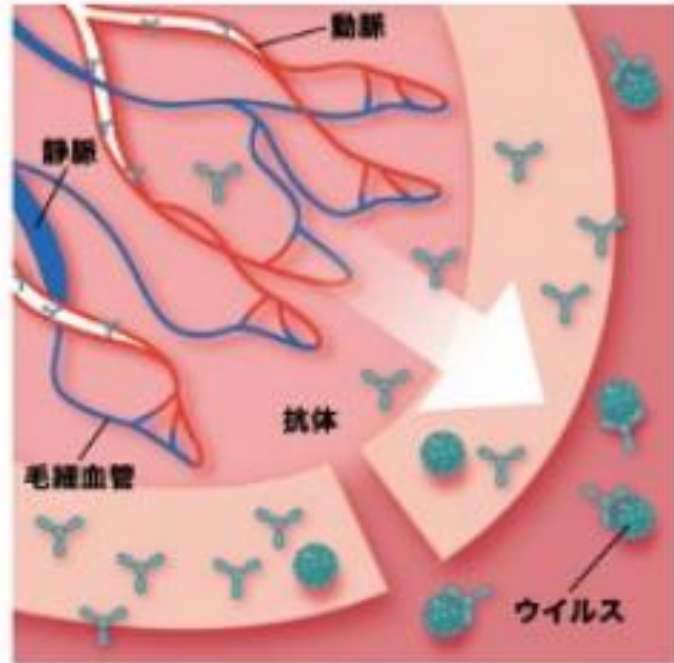
血中抗体価を強烈に上げて
大量の抗体を産生させ感染自体を防ぐ



日本産婦人科学会

子宮頸がんとHPVワクチンに関する正しい理解のために

https://www.jsog.or.jp/uploads/files/jsogpolicy/HPV_Part1_4.pdf



©JSOG All Right Reserved

2) HPV ワクチンが感染を予防するしくみは？

HPV ワクチンは、HPV が膣や子宮頸部に接着して、侵入するところを「抗体」という蛋白質によってブロックすることで感染を防ぎます (図 8)。すべての予防ワクチンは、予防接種を受けたヒトの体内で、免疫応答によって「抗体」を産生することで、病原体の感染をブロックできます。HPV ワクチンも、HPV16・18 型などに対する「抗体」を体内で産生させることで、HPV16・18 型などの感染をブロックしています。「抗体」は HPV 遺伝子型ごとに決まっているので、原則的に同じ型の HPV 感染を予防することになります。体内で「抗体」を産生して性器の粘膜や皮膚に抗体を出すためには、HPV ワクチンを筋肉注射するのが最も有効であることがわかっています¹⁰。血管内を流れる HPV に特異的な「抗体」が性器粘膜に漏れ出てきて、そこで HPV 感染をブロックします⁹。「抗体」を体内に長期間、高濃度で産生し続けるためには、HPV ワクチンを複数回接種するのが有効です。2 回、3 回目の接種によって免疫応答が数倍以上に高まり、少なくとも 10 年以上は抗体が感染を予防し続けることが分かっています。

長期間の高抗体価維持による過剰な免疫応答のリスク

人体にどんな影響が出るのか
まったくの不明

ワクチンはもともと健康な人が予防のために接種するため

通常の医薬品よりも

さらに高い安全性が必要

① 感覚系症状

頭痛、眼痛、関節痛・腹痛・筋肉痛、
激しい生理痛、手足の痺れ、手先・
足先の冷感、感覚低下、感覚過敏
(羞明、聴覚過敏) 視覚異常 等

② 運動障害

筋力低下・脱力発作、筋緊張、硬
直、歩行運動失調、不随意運動、
四肢のけいれん、ふるえ 等

③ 認知・情動系症状

認知機能低下、学習障害、記憶力低
下、記憶喪失、顔貌失認、集中力低
下、失神、全身倦怠感、疲労感、抑
うつ、人格変化 等

④ 自律神経・内分泌系症状

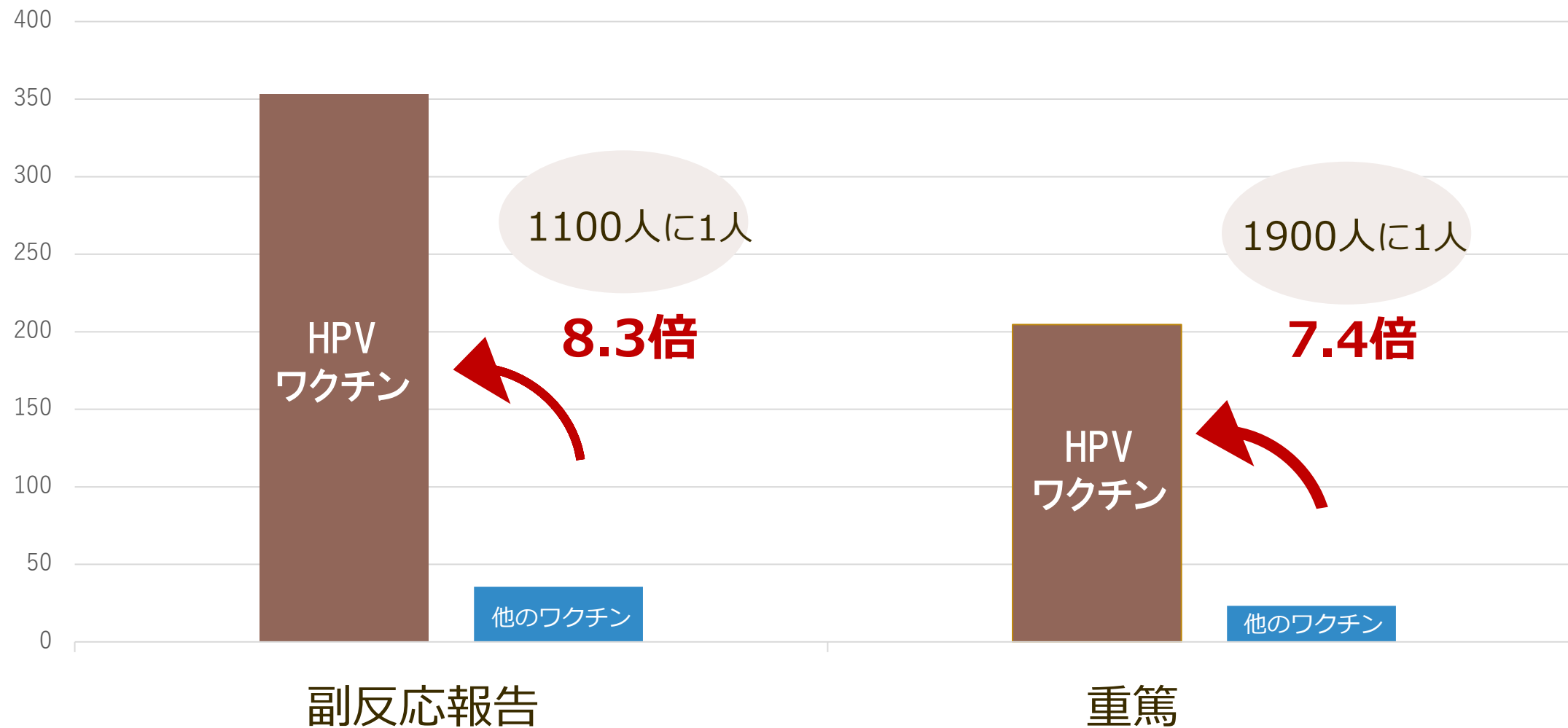
睡眠障害、ナルコレプシー、めまい、失神、
息苦しさ、消化器症状(嘔気、下痢、便
秘)、体温調整異常、発汗異常、月経異常
等、乳汁分泌、脱毛 等

複数の症状が同時に現れる

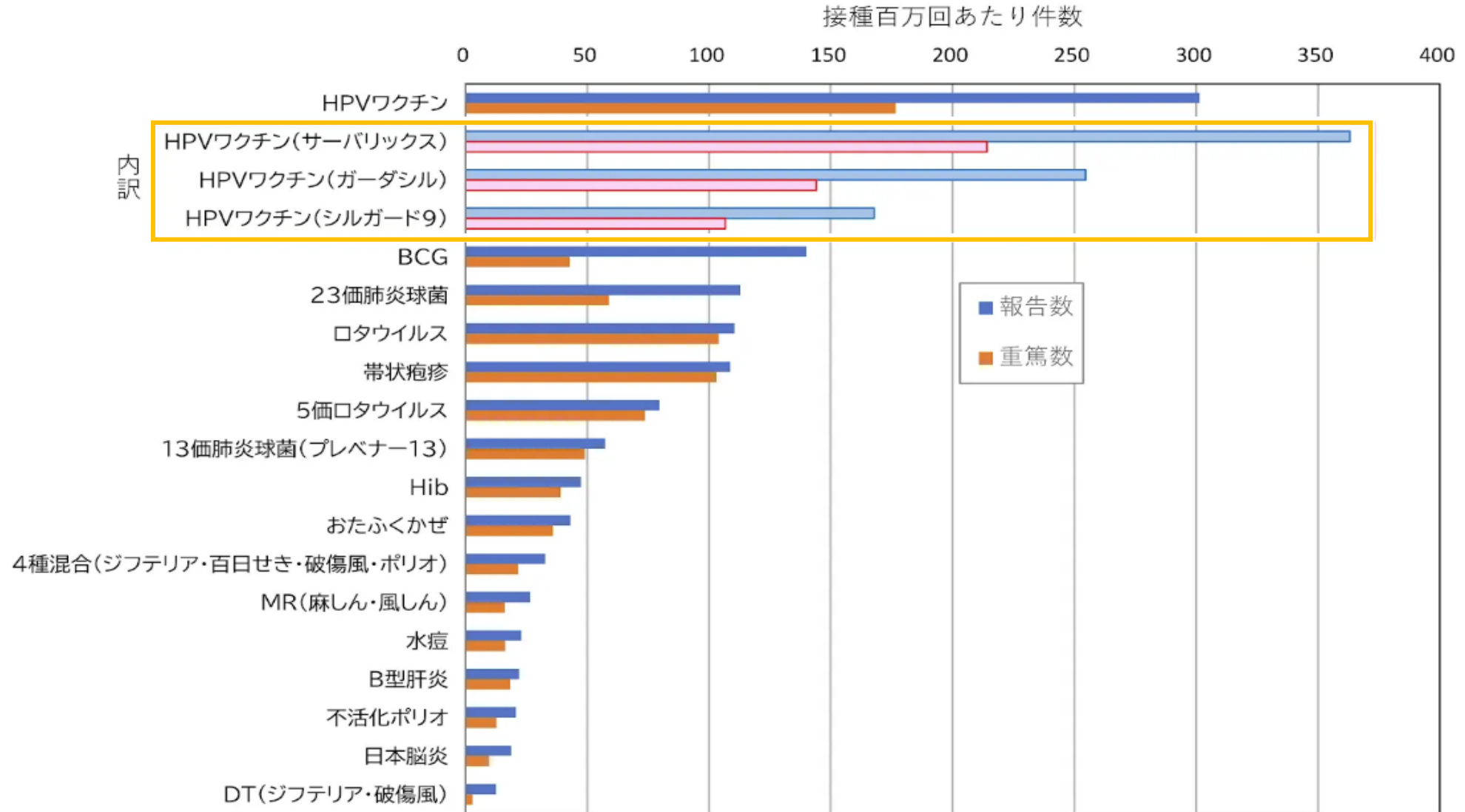
HPVワクチン接種後症状に共通する特徴

- 一人の体に多様な症状が全身に現れる
- 遅発性の場合もある
- 時間とともに変化(日内変動も)
- 寛解と増悪を繰り返し遷延化する
- 既存の疾患では説明がつかない
- 治療法がない

副反応報告頻度



予防接種の副反応疑い報告頻度比較



第102回副反応検討部会資料 (2024-07-29)

【副作用被害救済制度・年金給付の認定頻度の比較】

2021年10月現在

- 救済制度では、死亡・障害が残った場合の給付には、医療費等に加え、年金がある
- HPVワクチンの年金給付の認定頻度が他より高いことは、被害の深刻さを示している

1 HPVワクチンの年金給付の認定頻度 *1 *2

ワクチン	実施人員(企業推定)合計	認定人数合計	接種100万人あたり数
HPVワクチン	3,360,000人	46人 (障害46人, 死亡0人)	13.69人

(うち、定期接種112,880人からは3人障害認定。100万人あたり **26.58人**)

<HPVワクチンの認定頻度の高さ>

2 定期接種(A類疾病)ワクチンの年金給付の認定頻度

~各最大数として試算 (平成17~令和元年度) *1 *2 *3

ワクチン	期間実施人員合計	認定人数合計	接種100万人あたり数
DPT・DT	22,738,441人	25人 (障害18人, 死亡7人)	1.10人
ポリオ	10,158,210人	35人 (障害33人, 死亡2人)	3.45人
DPT-IPV	7,339,217人	4人 (障害3人, 死亡1人)	0.55人
麻しん・風しん(MR)	40,003,821人	25人 (障害22人, 死亡3人)	0.62人
日本脳炎	22,998,998人	30人 (障害24人, 死亡6人)	1.30人
結核(BCG)	14,680,487人	4人 (障害3人, 死亡1人)	0.27人
肺炎球菌(小児)(PCV)	7,061,463人	4人 (障害2人, 死亡2人)	0.57人
Hib	7,008,150人	3人 (障害2人, 死亡1人)	0.43人
水痘	6,437,302人	3人 (障害2人, 死亡1人)	0.47人
B型肝炎	2,725,687人	0人	0.00人

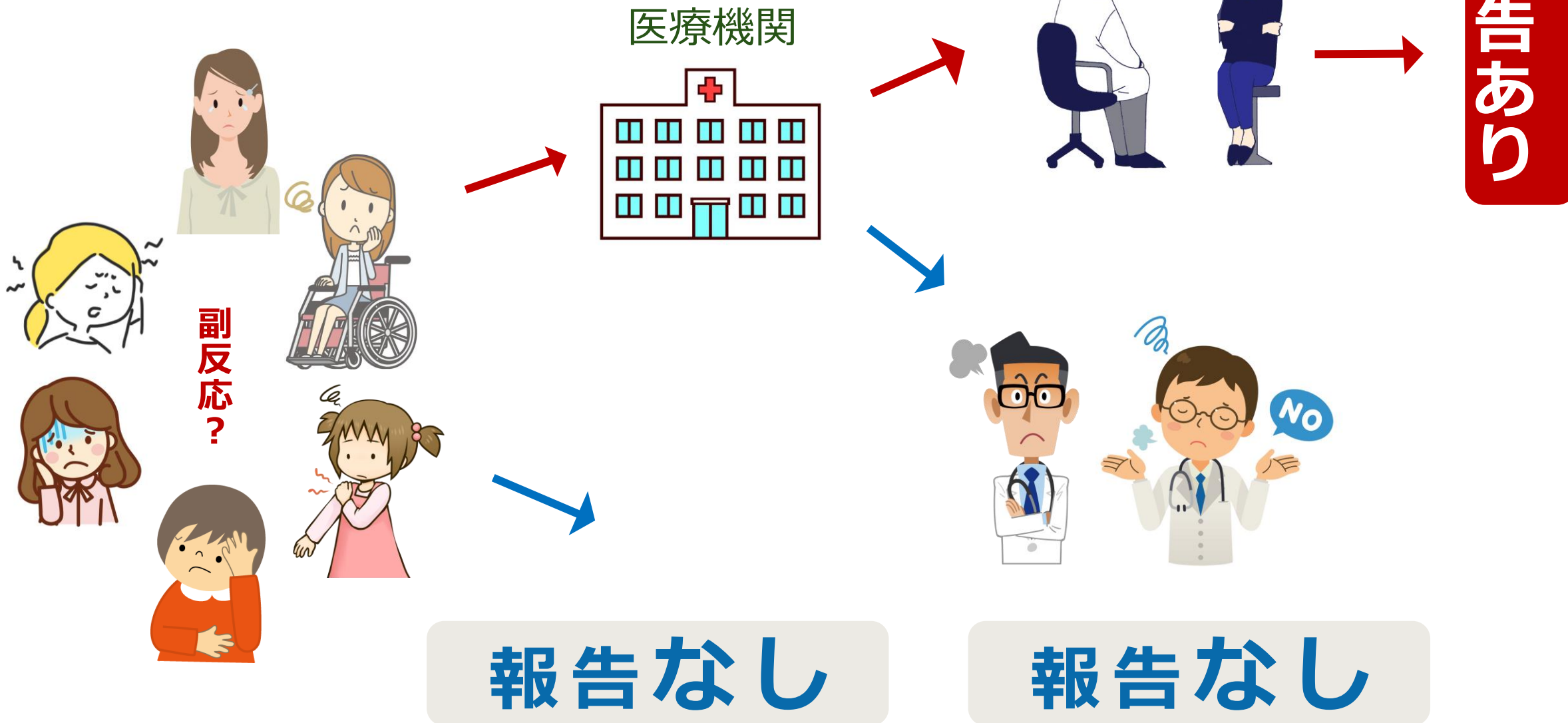
定期接種(A類疾病)ワクチン平均 **0.88人** 15.64倍

HPVワクチン
13.69人

約15倍の差

その他のワクチン
0.88人

副反応報告は氷山の一角



2022年4月
積極勸奨再開

2013年に勸奨がストップした当時の薬液と同じ

リスク情報 (概要版)



HPVワクチンの効果

HPVの中には子宮けいがんをおこしやすい種類(型)のものがいます。HPVワクチンは、このうち一部の感染を防ぐことができます。現在日本において受けられるワクチンは、防ぐことができるHPVの種類によって、2価ワクチン(サーバリックス[®])、4価ワクチン(ガーダシル[®])、9価ワクチン(シルガード[®]9)の3種類あります。^{※1}サーバリックス[®]およびガーダシル[®]は、子宮けいがんをおこしやすい種類であるHPV16型と18型の感染を防ぐことができます。そのことにより、子宮けいがんの原因の50～70%を防ぎます^{※2}。シルガード[®]9は、HPV16型と18型に加え、ほか5種類^{※3}のHPVの感染も防ぐため、子宮けいがんの原因の80～90%を防ぎます^{※2}。また、HPVワクチンで、がんになる手前の状態(がん病変)が減るとともに、がんそのものを予防する効果があることもわかっています。

HPVワクチンのリスク

筋肉注射という方法で注射します。接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状^{※1}が起こることがあります。ワクチンの接種を受けた後に、まれですが、重い症状^{※1}が起こることがあります。また、広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動^{※2}といった多様な症状が報告されています。ワクチンが原因となったものかどうか分からないものをふくめて、接種後に重篤な症状^{※3}として報告があったのは、ワクチンを受けた1万人あたり約3～5人^{※4}です。接種するワクチンや年齢によって、合計2回または3回接種しますが、接種した際に気になる症状が現れたら、それ以降の接種をやめることができます。接種後に気になる症状が出たときは、まずはお医者さんや周りの大人に相談してください^{※5}。

子宮けいがんを苦しめないために、できることが2つあります

①今からできること

日本では、小学校6年～高校1年相当の女の子を対象に、子宮けいがんの原因となるHPVの感染を防ぐワクチンの接種を提供しています。HPVの感染を防ぐことで、将来の子宮けいがんを予防できると期待されています。カナダ、イギリス、オーストラリアなどでは女の子の8割以上がワクチンを受けています。



②20歳になったらできること

HPVワクチンを受けていても、子宮けいがん検診は必要です。定期的に検診を受けることが大切です。



HPVワクチンのリスク

詳細版 P5

筋肉注射という方法で注射します。接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状^{※1}が起こることがあります。ワクチンの接種を受けた後に、まれですが、重い症状^{※1}が起こることがあります。また、広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動^{※2}といった多様な症状が報告されています。ワクチンが原因となったものかどうか分からないものをふくめて、接種後に重篤な症状^{※3}として報告があったのは、ワクチンを受けた1万人あたり約3～5人^{※4}です。接種するワクチンや年齢によって、合計2回または3回接種しますが、接種した際に気になる症状が現れたら、それ以降の接種をやめることができます。接種後に気になる症状が出たときは、まずはお医者さんや周りの大人に相談してください^{※5}。

※1 重いアレルギー症状(呼吸困難やじんましんなど)や神経系の症状(手足の力が入りにくい、頭痛・嘔吐・意識の低下)

※2 動かさそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまうこと

※3 重篤な症状には、入院相当以上の症状などがふくまれているが、報告した医師や企業者の判断によるため、必ずしも重篤でないものも重篤として報告されることがあります。

※4 サーバリックス[®]およびガーダシル[®]は約5人、シルガード[®]9は約3人

※5 HPVワクチン接種後に生じた症状の診療を行う協力医療機関をお住まいの都道府県ごとに設置しています。

リスク情報 (詳細版)



HPVワクチンのリスク

HPVワクチン接種後には、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。また、重い症状(重いアレルギー症状、神経系の症状)^{※1}が起こることがあります。

発生頻度	2価ワクチン(サーバリックス®)	4価ワクチン(ガーダシル®)	9価ワクチン(シルガード®9)
50%以上	疼痛、発赤 ^{※2} 、腫脹 ^{※2} 、発痒	疼痛 ^{※2}	疼痛 ^{※2}
10～50%未満	掻痒(かゆみ)、頭痛、悪寒、関節痛、頭痛など	紅斑 ^{※2} 、腫脹 ^{※2}	腫脹 ^{※2} 、頭痛
1～10%未満	じんましん、めまい、発熱など	頭痛、そう痒感 ^{※2} 、発熱	浮腫 ^{※2} 、めまい、悪心、下痢、そう痒感 ^{※2} 、発熱、疲労、内出血 ^{※2} など
1%未満	知覚異常 ^{※2} 、感覚鈍麻、全身の脱力	下痢、頭痛、四肢痛、筋骨格疼痛、硬結 ^{※2} 、出血 ^{※2} 、不快感 ^{※2} 、倦怠感 ^{※2}	嘔吐、腰痛、筋肉痛、関節痛、出血 ^{※2} 、血腫 ^{※2} 、倦怠感、硬結 ^{※2} など
頻度不明	四肢麻痺、失神、リンパ腫 ^{※2} など	失神、嘔吐、関節痛、筋肉痛、疲労など	感覚鈍麻、失神、四肢麻痺 ^{※2}

サーバリックス®(注1)は4価、ガーダシル®(注2)は4価、シルガード®9(注3)は9価ワクチンです。

因果関係があるかどうか分からないものや、接種後短期間で回復した症状をふくめて、

HPVワクチン接種後に生じた症状として報告があったのは、

接種1万人あたり、サーバリックス®またはガーダシル®では約9人、シルガード®9では約3人です^{※2}。

このうち、報告した医師や企業が重篤^{※3}と判断した人は、

接種1万人あたり、サーバリックス®またはガーダシル®では約5人、シルガード®9では約3人です^{※2}。

※1 重いアレルギー症状:呼吸困難やじんましん等(アナフィラキシー)、神経系の症状:手足の力が入りにくい(ギラン・バレー症候群)、頭痛・嘔吐・意識低下(急性散在性脳脊髄炎(ADEM))等

※2 HPVワクチン接種後に生じた症状として報告があった数(副反応疑い報告制度における報告数)は、企業からの報告では販売開始から、医療機関からの報告では平成22(2010)年11月26日から、令和5(2023)年6月末時点までの報告の合計。

※3 重篤な症状には、入院相当以上の症状などがふくまれていますが、報告した医師や企業の判断によるため、必ずしも重篤でないものも重篤として報告されることがあります。

HPVワクチン接種後に生じた症状の報告頻度

サーバリックス®またはガーダシル®
1万人あたり約9人^{※2}

シルガード®9
1万人あたり約3人^{※2}

HPVワクチン接種後に生じた症状(重篤)の報告頻度

サーバリックス®またはガーダシル®
1万人あたり約5人^{※2}

シルガード®9
1万人あたり約3人^{※2}

<痛みやしびれ、動かしにくさ、不随意運動について>

- ワクチンの接種を受けた後、広い範囲に広がる痛みや、手足の動かさにくさ、不随意運動(動かそうと思っていないのに体が勝手に動くこと)などを中心とする多様な症状^{※1}が報告されています。
- この症状は専門家によれば「機能的な身体症状」(何らかの身体症状はあるものの、画像検査や血液検査を受けた結果、その身体症状に適合する異常所見が見つからない状態)であると考えられています。
- 症状としては、①知覚に関する症状(腫や痛、関節等の痛み、感覚が鈍い、しびれる、寒に対する過敏など)、②運動に関する症状(脱力、歩行困難、不随意運動など)、③自律神経系に関する症状(倦怠感、めまい、睡眠障害、月経異常など)、④認知機能に関する症状(記憶障害、学習意欲の低下、計算障害、集中力の低下など)などいろいろな症状が報告されています。
- HPVワクチン接種後の局所の疼痛や不安等が機能的な身体症状をおこさなかったと判断されたことはまだ少ないが、接種後1か月以上経過してから発症している人は、接種との因果関係を立証しにくいと専門家によって評価されています。
- また、同年代のHPVワクチン接種者のない方においても、HPVワクチン接種後に報告されている症状と同様の「多様な症状」を有する方が一定数存在することが明らかになっています。
- このような「多様な症状」の報告を受け、様々な調査研究が行われていますが、ワクチン接種との因果関係があるという証明はされていません。
- ワクチンの接種を受けた後や、けがの後などに原因不明の痛みが持続したことがある方は、これらの状態が起る可能性が高いと考えられているため、接種については医師とよく相談してください。

因果関係があるかどうか分からないものや、接種後短期間で回復した症状をふくめて、
HPVワクチン接種後に生じた症状として報告があったのは、
接種1万人あたり、サーバリックス®またはガーダシル®では約9人、シルガード®9では約3人です^{※2}。
このうち、報告した医師や企業が重篤^{※3}と判断した人は、
接種1万人あたり、サーバリックス®またはガーダシル®では約5人、シルガード®9では約3人です^{※2}。

※1 重いアレルギー症状:呼吸困難やじんましん等(アナフィラキシー)、神経系の症状:手足の力が入りにくい(ギラン・バレー症候群)、頭痛・嘔吐・意識低下(急性散在性脳脊髄炎(ADEM))等
※2 HPVワクチン接種後に生じた症状として報告があった数(副反応疑い報告制度における報告数)は、企業からの報告では販売開始から、医療機関からの報告では平成22(2010)年11月26日から、令和5(2023)年6月末時点までの報告の合計。
出荷数量より推計した接種者数(サーバリックス®およびガーダシル®は413万人、シルガード®9は32.9万人)を分母として1万人あたりの頻度を算出。
※3 重篤な症状には、入院相当以上の症状などがふくまれていますが、報告した医師や企業の判断によるため、必ずしも重篤でないものも重篤として報告されることがあります。

HPVワクチン接種後に生じた症状の報告頻度

サーバリックス®またはガーダシル®
1万人あたり約9人^{※2}

シルガード®9
1万人あたり約3人^{※2}

HPVワクチン接種後に生じた症状(重篤)の報告頻度

サーバリックス®またはガーダシル®
1万人あたり約5人^{※2}

シルガード®9
1万人あたり約3人^{※2}

1. 統計情報のまとめ

診断される数（2019年）	10,879例
死亡数（2020年）	2,887人
5年相対生存率（2009～2011年）	76.5 %

- 人口あたりの罹患率は16.8 例（人口10万対） **（1万人あたり1.68人）**
- 人口あたりの死亡率は4.6 人（人口10万対） **（1万人あたり0.46人）**

元データ：全国がん登録罹患データ（罹患）[🔗](#)、人口動態統計死亡データ（死亡）[🔗](#)、地域がん登録生存率データ（生存率）[🔗](#)

国立がん研究センターがん情報サービス

https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/cancer/17_cervix_uteri.html#anchor2

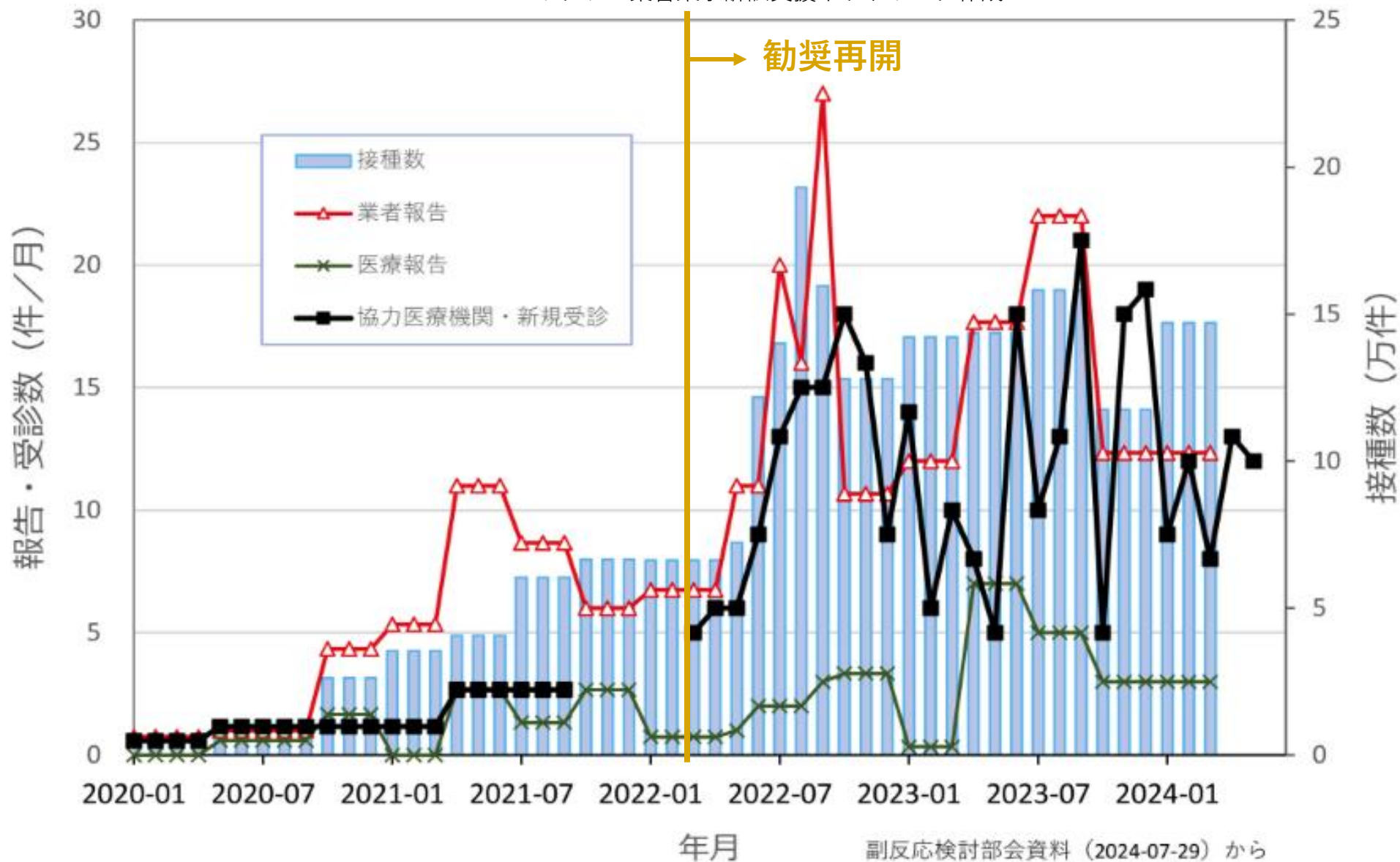
厚生労働省のリーフレット詳細版には

接種1万人あたり、サーバリックスまたはガーダシルでは約9人、シルガードでは3人

このうち重篤と判断されてのは、接種1万人あたり、サーバリックスまたはガーダシルでは約5人、シルガードでは約3人

HPVワクチン接種数と重篤な副反応

HPVワクチン薬害東京訴訟支援ネットワーク作成



副反応検討部会資料 (2024-07-29) から
数カ月一括報告は平均値で表示

協力医療機関を設置

2014年から各都道府県に1ヶ所以上設置
(2024・10現在 101ヶ所)



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

ホーム

Google カスタム検索

テーマ別に探す 報道・広報 政策について 厚生労働省について 統計情報・白書 所管の法

[ホーム](#) > [政策について](#) > [分野別の政策一覧](#) > [健康・医療](#) > [健康](#) > [感染症・予防接種情報](#) > [予防接種情報](#) > [ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関について](#)

健康・医療

ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関について

協力医療機関とは

HPVワクチンの接種後に生じた症状について、患者へより身近な地域において適切な診療を提供するため、各都道府県において協力医療機関が選定されています。

 [\(参考\) 令和4年6月6日一部改正「ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関の選定について」\(健康課長通知\) \[PDF形式: 318KB\] \[318KB\]](#) 

「HPVワクチンの安全性に関する フォローアップ研究」

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）

<https://www.mhlw.go.jp/content/11120000/001280570.pdf>

第102回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、
令和6年度第4回薬事審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会
2024(令和6)年7月29日 資料 3-2

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)

「HPVワクチンの安全性に関する フォローアップ研究」

(研究代表者：岡部信彦)

国立成育医療研究センター 政策科学研究部
竹原健二・山本依志子

HPVワクチン接種後に症状を呈した患者のサーベイランス 調査概要

- 【目的】 HPVワクチンの積極的勧奨が再開となった2022年4月以降、HPVワクチン接種後の体調不良を主訴として協力医療機関を受診した患者数の推移を把握する
- 【方法】 Webアンケート調査
- 【調査対象】 73協力医療機関（2024年7月時点）
（全94協力医療機関から、研究参加を辞退した13協力医療機関と、研究参加の依頼・調整中である8つの医療機関を除いたもの）
- 【調査期間】 2022年3月から、毎月1回
- 【報告対象者】 HPVワクチン接種後に何らかの症状を訴えて、協力医療機関を受診した患者（因果関係が不明な場合を含む）
- 【調査項目】 新規受診者数・継続受診者数・合計受診者数
(※1) 新規受診者のうち、時期カテゴリ別の人数

(※1) 前月1ヶ月における患者データの調査項目のうち、今回の公表資料記載の項目

「HPVワクチンの安全性に関する フォローアップ研究」

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）

<https://www.mhlw.go.jp/content/11120000/001280570.pdf>

第102回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、 令和6年度第4回薬事審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会	資料 3-2
2024(令和6)年7月29日	

HPVワクチン接種後に症状を呈した患者のサーベイランス受診患者数（2022年度）

・速報値（2024年6月28日時点） ・調査対象施設：73施設

(人)	回答施設数	ワクチン納入数(*1)	合計受診患者数(新規+継続)	新規受診患者数(*2)	継続受診患者数(*2)	ワクチン接種から			
						1週間以内に発症した患者数(*3)	1週間以降、1ヶ月以内に発症した患者数(*3)	1ヶ月以降に発症した患者数(*3)	発症時期不明
2022年3月分	63	99,003	47	5	42	1	2	1	1
2022年度									
4月分	62	65,466	33	6	27	3	1	2	0
5月分	67	72,324	35	6	29	2	0	3	1
6月分	66	121,807	45	9	36	1	3	5	0
7月分	65	140,073	45	13	31	8	0	4	1
8月分	66	193,107	47	15	32	9	1	4	1
9月分	69	159,885	54	15	39	7	2	6	0
10月分	65	155,356	53	18	35	7	8	3	0
11月分	69	125,470	57	16	41	7	6	4	0
12月分	69	113,542	52	9	43	5	2	2	0
1月分	65	99,641	42	14	28	8	2	4	0
2月分	69	109,865	46	6	40	3	1	1	1
3月分	67	216,905	57	10	47	7	1	2	0

新規受診
137人

HPVワクチン接種後に症状を呈した患者のサーベイランス受診患者数（2023年度）

・速報値（2024年6月28日時点） ・調査対象施設：73施設

(人)	回答施設数	ワクチン納入数(*1)	合計受診患者数(新規+継続)	新規受診患者数(*2)	継続受診患者数(*2)	ワクチン接種から			
						1週間以内に発症した患者数(*3)	1週間以降、1ヶ月以内に発症した患者数(*3)	1ヶ月以降に発症した患者数(*3)	発症時期不明
2022年3月分	63	99,003	47	5	42	1	2	1	1
2023年度									
4月分	67	197,007	29	8	20	4	1	2	1
5月分	62	90,551	34	5	29	5	0	0	0
6月分	64	143,330	56	18	38	8	5	1	4
7月分	64	143,566	40	10	30	8	2	0	0
8月分	63	210,165	57	13	44	7	3	3	0
9月分	63	120,944	56	21	35	12	8	0	1
10月分	62	124,802	42	5	37	2	2	1	0
11月分	64	120,015	54	18	36	14	3	1	0
12月分	63	108,001	51	19	32	9	3	5	2
1月分	62	109,953	37	9	28	7	1	1	0
2月分	59	114,705	49	12	37	4	4	1	3
3月分	60	216,544	40	8	32	3	0	5	0

新規受診
146人

HPVワクチン接種後に症状を呈した患者のサーベイランス受診患者数（2024年度）

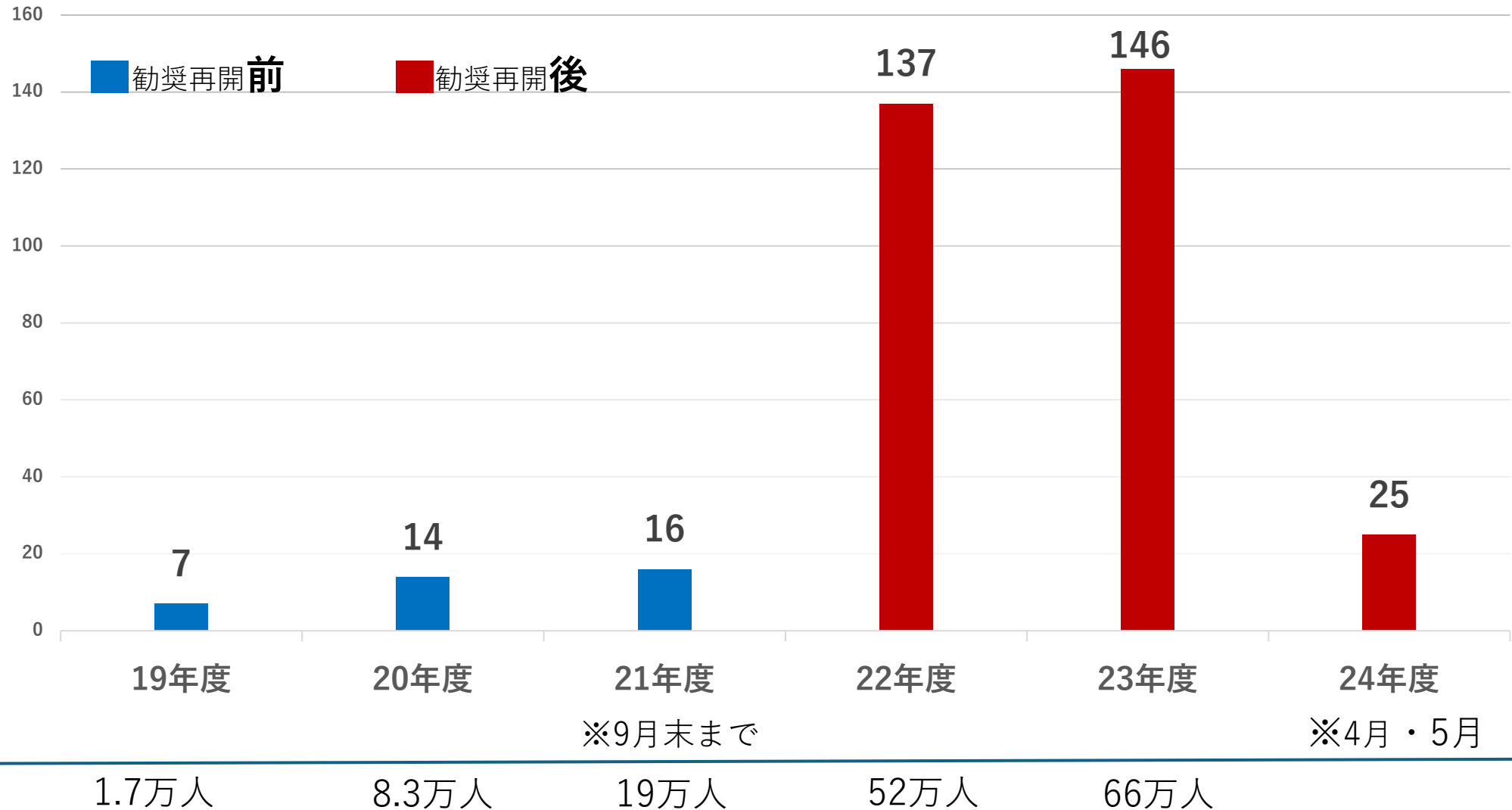
・速報値（2024年6月28日時点） ・調査対象施設：73施設

(人)	回答施設数	ワクチン納入数(*1)	合計受診患者数(新規+継続)	新規受診患者数(*2)	継続受診患者数(*2)	ワクチン接種から			
						1週間以内に発症した患者数(*3)	1週間以降、1ヶ月以内に発症した患者数(*3)	1ヶ月以降に発症した患者数(*3)	発症時期不明
2022年3月分	63	99,003	47	5	42	1	2	1	1
2024年度									
4月分	57	175,445	44	13	31	7	3	3	0
5月分	55	176,133	39	12	27	8	2	2	0

新規受診
25人

積極勧奨再開後

(問題だらけ) 協力医療機関への**新規**受診者



【まとめ】

- サーベイランスも3年目に突入したが、積極的勧奨再開前の2022年3月時点と比べて、再開後はワクチン接種数の増加にあわせて新規患者数の増加は認めしたが、新規受診患者数は5-21人/月、継続受診患者数は30-40人程度/月であったものが、今年度は30人程度/月で推移しており、全体を通して、新規・継続受診者数のいずれにも顕著な変化は認められていない。

【今後に向けて】

- 引き続き、患者数の把握を継続し、変動の早期把握を行える体制を維持する。
- 拠点病院整備事業の地域ブロック会議などによるサーベイランスの結果の共有を継続するなど、全国の都道府県や協力医療機関と連携していく。

問題だらけの協力医療機関

詐病扱い・心無い言葉・心療内科や精神科を紹介・受診拒否

**症状を知らない・否定する医師のいる科が窓口
適切な科に紹介してもらえない**

産婦人科・整形外科・小児科・ペインがほとんど



- ・病院に来て何もしないけど次予約する？
- ・子宮頸がんワクチンの副作用なんかあるわけない。
- ・そんなに副作用を認めてもらいたいのか。
- ・家にいると具合が悪くなるんだね。
- ・子どもは本当に痛いときは痛いと言わないもんんだ
- ・大げさに言っているだけでしょう。
- ・学校に行きたくないから嘘をついている。
- ・演技しないでいいよ、本当は立てるでしょ。
- ・お母さんの育て方に問題があるからこんな子になる。

国の見解

2014年1月 第7回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会

https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10601000-Daijinkanboukouseikagakuka-Kouseikagakuka/0000055692_2.pdf

- ①神経学的疾患
- ②中毒
- ③免疫反応
- ④心身の反応



④心身の反応

接種の痛みと痛みに対する恐怖が惹起する機能的な身体症状

最近では **ISRR**（予防接種ストレス関連反応）を提唱

2022年7月 第81回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会

<https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/000962339.pdf>

思春期特有の不定愁訴

他の疾患の紛れ込み

社会的要因によるストレスの反応

受診拒否

診てくれる医療機関が
ほとんどない

平均11の医療機関を受診

治療法がない

回復の見通しが立たない
出口のない闘病生活

2011年～

医療機関 学校・職場

無理解

症状の無理解
詐病扱いな
心無い対応をされる
留年・退学・退職

働けない

突然の体調変化や体力の
維持ができない
週3日程度のアルバイト

社会からの孤立・不安

病院と自宅だけの生活
取り残される不安
今後の経済的な不安

HPVワクチン薬害訴訟

2016年7月 東京・名古屋・大阪・福岡で一斉提訴
原告117名 (2024.10現在)

名古屋



東京



福岡



大阪

裁判の目的

裁判によって国と企業の法的責任を明確にし、真相を明らかにして被害をくりかえさないようにすること。それを基盤に**真の救済と再発防止の実現**を目指す。

- ① 病態解明・治療法の確立
- ② 症状への理解
- ③ 被害者の成長や環境に伴う恒久的支援
- ④ 再発防止

これまでの疾患では 説明できない特徴的な症候群

HPVワクチン接種後の多様な症状を訴える患者を数多く診察している
国内屈指の神経難病や免疫疾患・脳炎脳症の専門家の研究



自己抗体の検出

脳が広範囲にまだらに障害を受けている脳炎・脳症



免疫介在性の神経障害

HPVワクチン接種との関わりが深い

心因性を強く否定

問題点

- HPVワクチンの被害が無視されている
- 正しい情報提供が行われていない

生命身体に大きく影響する副反応が出ることもある
これまでにない症状に対する偏見差別にさらされる
被害は身体だけにとどまらない

**これまでの薬害の教訓は生かされているのか？
国や権威ある団体が勧めていても
絶対に安全だとは限らない**

ご清聴ありがとうございました。